



Y.Maeda

THE SHUKA SHO

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 110,000,000円 44,000,000円 28,000,000円 17,000,000円 11,000,000円
付加賞 3,780,000円 1,080,000円 540,000円



レース映像は
こちらでご覧
いただけます。

牝、3歳、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 馬齢重量

2025.10.19 京都 豊・良 芝2000m (国産) (指定)

順	馬番	馬名	性	齢	斤	騎	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑪	エンブroidラー	牝	3	55	C.ルメール	1:58.3	6-6-2-2	35.2	488(+6)	5.5(2)	森 一誠(美浦)	115
2	⑩	エリカエクスプレス	牝	3	55	武 豊	1/2	1-1-1-1	35.4	462(±0)	15.1(5)	杉山晴紀(栗東)	114
3	⑧	バラディレーヌ	牝	3	55	丹内祐次	3/4	16-17-14-10	34.4	502(+6)	16.9(6)	千田輝彦(栗東)	113
4	③	ジョスラン	牝	3	55	岩田望来	1/4	6-9-11-13	34.7	472(+2)	12.5(4)	鹿戸雄一(美浦)	110
5	⑬	セナスタイル	牝	3	55	岩田康誠	ハナ	15-13-14-14	34.6	434(±0)	10.1(3)	安田翔伍(栗東)	110
6	⑭	ビップデイズ	牝	3	55	西村淳也	3/4	11-10-6-6	35.5	442(+10)	23.9(9)	松下武士(栗東)	109
7	⑦	クリノメイ	牝	3	55	酒井 学	クビ	11-14-14-15	34.7	454(+2)	180.6(17)	須貝尚介(栗東)	108
8	②	ルージュソリテール	牝	3	55	北村友一	1/4	6-6-9-9	35.4	450(+2)	43.2(16)	藤原英昭(栗東)	106
9	⑨	インヴォーク	牝	3	55	団野大成	ハナ	2-2-3-3	35.8	502(+6)	56.0(14)	福永祐一(栗東)	106
10	⑥	マビュース	牝	3	55	横山武史	アタマ	11-10-9-10	35.3	488(±0)	28.1(10)	和田勇介(美浦)	106
11	⑥	グリフレッドアスク	牝	3	55	西塚光二	3/4	3-4-8-7	35.7	458(+2)	39.5(11)	藤原英昭(栗東)	105
12	⑫	ヴァレヴ	牝	3	55	菱田裕二	アタマ	11-15-11-10	35.5	494(+6)	122.6(16)	武幸四郎(栗東)	105
13	⑬	ランフォーヴァウ	牝	3	55	小崎綾也	1/2	17-16-17-15	35.1	460(-4)	348.5(18)	福永祐一(栗東)	102
14	④	テレサ	牝	3	55	松山弘平	1	6-6-6-7	36.2	444(+6)	19.4(3)	杉山晴紀(栗東)	100
15	①	ダノンフェアレディ	牝	3	55	坂井瑠星	1/4	3-2-3-3	36.7	470(-12)	18.7(7)	橋口慎介(栗東)	98
16	⑦	カムニャック	牝	3	55	川田将雅	1/4	3-4-3-3	36.9	490(+8)	2.1(1)	友道康夫(栗東)	96
17	④	レーゼドラマ	牝	3	55	藤岡佑介	大差	17-17-17-18	37.6	474(-2)	78.0(15)	辻野泰之(栗東)	76
18	⑤	ブラウンラチェット	牝	3	55	池添謙一	大差	6-10-11-15	42.9	440(-2)	45.5(13)	手塚貴久(美浦)	24

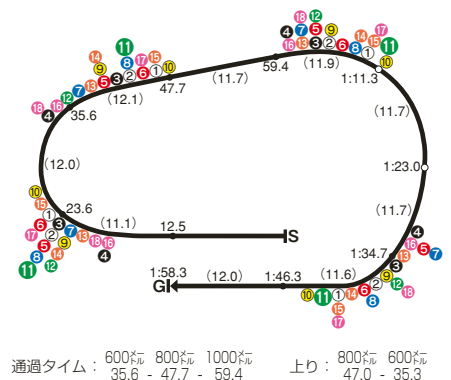
単勝⑩⑪560円(2[△]△) 複勝⑩⑪240円(2[△]△) ⑩⑪560円(9[△]△) ⑩⑪560円(8[△]△) 枠連⑤⑥2,530円(10[△]△)

馬連⑩⑪5,280円(14[△]△) ワイド⑩⑪1,790円(15[△]△) ⑩⑪⑫2,220円(21[△]△) ⑩⑪⑫4,610円(48[△]△)

馬単⑩⑪⑫1,170円(22[△]△) 3連複⑩⑪⑫29,560円(85[△]△) 3連単⑩⑪⑫129,850円(338[△]△)

5重勝③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ 対象競走：東京10R/京都10R/新潟11R/東京11R/京都11R

第30回 秋華賞 (GI)



アラカルト

- ・C.ルメール騎手はチェルヴィニアで制した24年に続く秋華賞4勝目で、自身の持つ本競走最多勝利記録を更新。JRA重賞は本年7勝目、通算166勝目
- ・森一誠調教師は秋華賞初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算4勝目
- ・アドマイヤマーズ産駒はJRA重賞通算3勝目
- ・非当選馬 3頭(カネラフィーナ、グローリーリンク、ジョイフルニュース)
- ・非当選馬 1頭(テリオスラ)

エンブロイダリー *Embroidery*

牝 鹿毛 2022.2.1生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・南シルクレーシング 美浦・森一誠厩舎
馬名意味・刺繍。母名より連想

アグサンIRE系 F16-c

アドマイヤマーズ 栗毛 2016	ダイワメジャー 栗毛 2001	サンデーサイレンスUSA スカーレットブーケ
	ヴィアメディチIRE 栗毛 2007	Medicean Via Milano
ロッテンマイヤー 鹿毛 2013	クロフネUSA 芦毛 1998	French Deputy Blue Avenue
	アーデルハイト 鹿毛 2007	アグネスタキオン ビワハイジ

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4

INTERVIEW

大谷渡 厩舎長（ノーザンファーム早来）

力を出し切れれば勝負になると思っていました

オークスは気性面の難しさもあって力を発揮しきれないレースとなりました。ノーザンファーム天栄のスタッフや、森一誠調教師と厩舎の皆さんがその点もケアしながら調教を進めてくれており、それが返し馬やゲート裏での落ちつきにも現れていました。この馬の力を出し切れれば勝負になると思っていました。が、ルメール騎手が見事な手綱捌きで勝利へ導いてくれました。

N.Inaba



24000頭のオークスでは序盤から力みが目立ち、1番人気の支持に応えられなかった（9着本馬。しかし向正面で進出した後、2番手でスムーズに折り合ったこの日の走りには着実な進境が窺えた。思い切ったリードで勝利に導いたルメール騎手は、歴代単独首位となる秋華賞4勝目をマーク。そんな名手と呼びあわせ、春の課題を克服した桜の女王が、3歳牝馬の「盟主」の座に再び咲いた。

父アドマイヤマーズ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、香13戦6勝（香港マイル^{G1}、朝日杯フューチュリティS^{G1}、NHKマイルC^{G1}、デシリール杯2歳S^{G2}、中京2歳S^{G2}、共同通信杯^{G2}2着、香港マイル^{G1}3着、マイルチャンピオンシップ^{G1}3着、スワンS^{G2}3着、皐月賞^{G1}4着）、最優秀2歳牡馬、21年から日、豪で供用〔代表産駒〕エンブロイダリー（本馬）、ナムラクララ（紅梅S・L）、プラネットレッド Planet Red（コフィールドギニー・豪^{G2}2着）、テレサ（ローズS^{G2}2着）

母ロッテンマイヤー

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央14戦3勝（忘れな草賞^{G2}、クイーンC^{G3}3着）

ゼーゼマン（21 牡父エビファネシア）中央2戦1勝

エンブロイダリー 本馬（22 牝父アドマイヤマーズ）中央8戦5勝（桜花賞^{G1}、

秋華賞^{G1}、クイーンC^{G3}）獲得総賞金338,331,000円

パートラガッツ（23 牡父アルステール）（現

（24 牝父クリソペリル）

（25 牡父リオンディーズ）

祖母アーデルハイト

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央0勝

ラダームブランシェ（12 牝父チカステナゴFR）中央1勝、オードリーバ

ローズ（節分S）の母

ロッテンマイヤー（13 前出）

アーデルワイゼ（15 牝父エイシンフラッシュ）中央2勝（もみじS^{G2}2着）

マイエンフェルト（16 牝父ハービンジャーGB）中央3勝（HTB賞）

エーデルブルーメ（19 牝父ハービンジャーGB）中央4勝（ダイワスカーレッ

トC、北海H、松浜特別、マーメイドS^{G2}2着）

アーデルリーベ（22 牝父ヘニーヒューズUSA）中央1勝、地方0勝（エーデル

ワイズ賞^{Jb}Ⅲ3着）（現

曾祖母ビワハイジ

北海道新冠町 早田牧場新冠支場生産 中央4勝（阪神3歳牝馬S^{G1}、京都牝馬特別^{G2}、札幌3歳S^{G2}、チューリップ賞^{G2}2着）、最優秀2歳牝馬、15年用途変更、フエナビスター（ジャパンC^{G1}、天皇賞（秋）^{G1}、オークス^{Jb}Ⅰ、桜花賞^{Jb}Ⅰ、ヴィクトリアマイル^{G1}）、ジョウドヴィーヴル（阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1}）、アドマイヤオーラ（京都記念^{G2}、弥生賞^{Jb}Ⅱ、シンザン記念^{Jb}Ⅲ、日本ダービー^{Jb}Ⅰ3着）、サンクリアル（フローラS^{G2}）、アドマイヤジャパン（京成杯^{G2}、菊花賞^{G1}2着）、トーセンレーヴ（エプソムC^{G2}）の母

ぶつつけ 挑戦で春の雪辱を果たす

18頭の出走馬中、ひと桁の単勝オッズを記録したのはオークス馬カムニャックと桜花賞馬エンブロイダリーのみ。女王対決が最大の焦点となった秋華賞は、トライアルのローズSを中身の濃い内容で完勝したカムニャックが断然の主役と目された。しかし勝利の女神が微笑んだのは離れた2番人気の評価に甘んじた桜の女王。苦杯を喫したオークスから「ぶつつけ」のローテーションで臨んだエンブロイダリーが、春の雪辱を見事に果たした。

手綱を押して飛び出した紫苑Sの覇者ケリフレッドアスクをエリカエクスプレスが1コーナー手前でかわし、主導権を奪取。桜花賞、オークスに続く

最後の1冠も風を切る。平均的な流れでレースが進むなか、カムニャックは好位の一角を追走。エンブロイダリーはC・ルメール騎手はその直後につけたが、向正面に差し掛かるとライバルに先んじて動き、エリカエクスプレスに並びかける。対して3番人気に支持されたローズSの3着馬セナスタイルは、外めの枠から内に折り込み、馬群の後方でじっくりと末脚を温存した。並ばれてもリズムを崩さず、緩みのないラップを刻んで逃げたエリカエクスプレスと、2番手に控えて折り合いに専念したエンブロイダリー。これを追いかけたカムニャックは3コーナーの坂の下りで失速し、直線は前の2頭の争いに。快調に飛ばしたエリカエクスプレスは徐々にリードを広げて逃げ込み態勢を築いたが、いったん水を開けられたエンブロイダリーもしぶとく反撃。懸命に抵抗する逃げ馬をねじ伏せ、二冠制覇のゴールへ飛び込んだ。

24000頭のオークスでは序盤から力みが目立ち、1番人気の支持に応えられなかった（9着本馬。しかし向正面で進出した後、2番手でスムーズに折り合ったこの日の走りには着実な進境が窺えた。思い切ったリードで勝利に導いたルメール騎手は、歴代単独首位となる秋華賞4勝目をマーク。そんな名手と呼びあわせ、春の課題を克服した桜の女王が、3歳牝馬の「盟主」の座に再び咲いた。